



DJIA

Global X Dow 30[®] Covered Call ETF
グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF

運用報告書（全体版）

2023年10月31日に終了する計算期間

免責事項

この運用報告書はグローバルXファंडズの2023年10月31日付 Annual Report の記載事項の翻訳に基づいており、日本における投資家の参照用に作成されたものです。投資家は、この運用報告書および上記 Annual Report との間に齟齬が生じた場合、上記 Annual Report が優先されることにご留意下さい。

- (注)
1. 本書に記載の「ドル」または「\$」という用語は、別段の記載がある場合を除き米ドルを指す。また、本書に記載の金額のうち通貨単位の記載がないものは、別段の記載がある場合を除きその通貨単位は米ドルである。
 2. 本書において、米ドルの円貨換算は、2024年5月23日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客直物電信売買相場仲値（1米ドル=156.92円）による。別段の記載がある場合を除き、かかる計算から生じる金額につき、1円または1百万円未満の端数を四捨五入する。なお、米ドルの円貨換算は、原文には含まれておらず、監査報告その他本書面上の報告の対象たる財務諸表を構成するものではない。

2024年5月31日

金融庁長官 殿
発行者

受益証券発行者名	グローバルXファンズ (Global X Funds)
代表者の役職氏名	プレジデント トーマス・パク (Thomas Park, President)
本店の所在地	ニューヨーク州 10022、ニューヨーク、レキシントン・アベニュー600 (600 Lexington Avenue, New York, New York 10022)
代理人の氏名又は名称	弁護士 樋口 航
代理人の住所又は所在地	〒100-8136 東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業
事務連絡者氏名	弁護士 樋口 航
事務連絡場所	〒100-8136 東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング アンダーソン・毛利・友常法律事務所外国法共同事業
電話番号	(03)6775-1142

外国投資信託に関する投資信託財産運用報告書

投資信託及び投資法人に関する法律第59条において準用する同法第14条の規定により外国投資信託に関する投資信託財産運用報告書を提出します。この報告書の記載事項は、事実と相違ありません。

目 次

本書の記載事項の説明	4
ファンドのパフォーマンスに関する経営陣による考察（未監査）	6
投資一覧	8
貸借対照表	10
損益計算書	11
純資産変動計算書	12
財務ハイライト	13
財務諸表に対する注記	14

本書の記載事項の説明

1. ファンドの仕組み

「ファンドのパフォーマンスに関する経営陣による考察（未監査）」を参照。

2. 計算期間中における資産の運用の経過

「ファンドのパフォーマンスに関する経営陣による考察（未監査）」および「財務ハイライト」等を参照。なお、2023年10月31日終了の計算期間中の本ファンドのシェア1口当たりの純資産価額は以下のとおりであり、また当該計算期間中に支払われた配当の総額はシェア1口当たり1.724241ドル（271円）であった。

通貨	2022年 11月30 日	2022年 12月30 日	2023年 1月31 日	2023年 2月28 日	2023年 3月31 日	2023年 4月28 日	2023年 5月31 日	2023年 6月30 日	2023年 7月31 日	2023年 8月31 日	2023年 9月29 日	2023年 10月31 日
ドル	22.26	21.61	22.17	21.92	21.66	21.81	21.29	22.05	22.34	21.98	21.33	20.89
円	3,493	3,391	3,479	3,440	3,399	3,422	3,341	3,460	3,506	3,449	3,347	3,278

3. 運用状況の推移

「ファンドのパフォーマンスに関する経営陣による考察（未監査）」および「財務ハイライト」等を参照。

4. ファンドの経理状況

「貸借対照表」、「損益計算書」、「純資産変動計算書」、「財務ハイライト」および「財務諸表に対する注記」等を参照。

5. 信託報酬その他の手数料等

「損益計算書」および「財務諸表に対する注記」等を参照。

6. 計算期間の末日における純資産額計算書

「貸借対照表」および「純資産変動計算書」等を参照。

7. 投資の対象とする有価証券等の主な銘柄

「ファンドのパフォーマンスに関する経営陣による考察（未監査）」および「投資一覧」等を参照。

ファンドのパフォーマンスに関する経営陣による考察（未監査）

グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF

グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF（以下「本ファンド」という。）は、ダウ・ジョーンズ工業株価平均 CBOE バイライト・V2・インデックス（DJIA CBOE BuyWrite v2 Index）（以下「対象インデックス」という。）の価格および利回りのパフォーマンス（手数料および費用控除前）に原則的に連動する投資成果を提供することを目指す。本ファンドは、パッシブ運用を行っている。つまり、投資アドバイザーは、後退している市場において防衛的なポジションを模索しない。本ファンドは、原則として対象インデックスを完全に複製することを目指す。

対象インデックスは、ダウ・ジョーンズ工業株価平均（以下「参照インデックス」という。）の原株の仮想ポートフォリオを保有し、かつ、アット・ザ・マネーで参照インデックスについて一連の1カ月物カバード・コール・オプションを「売り建て」（すなわち、売却する）カバード・コール戦略のパフォーマンスを測定する。対象インデックスは、参照インデックスの構成銘柄のパフォーマンスを反映しつつ、参照インデックスの構成銘柄のポートフォリオの価値に応じてアット・ザ・マネーのコールオプションの売り建て（売却）を組み合わせたものである。

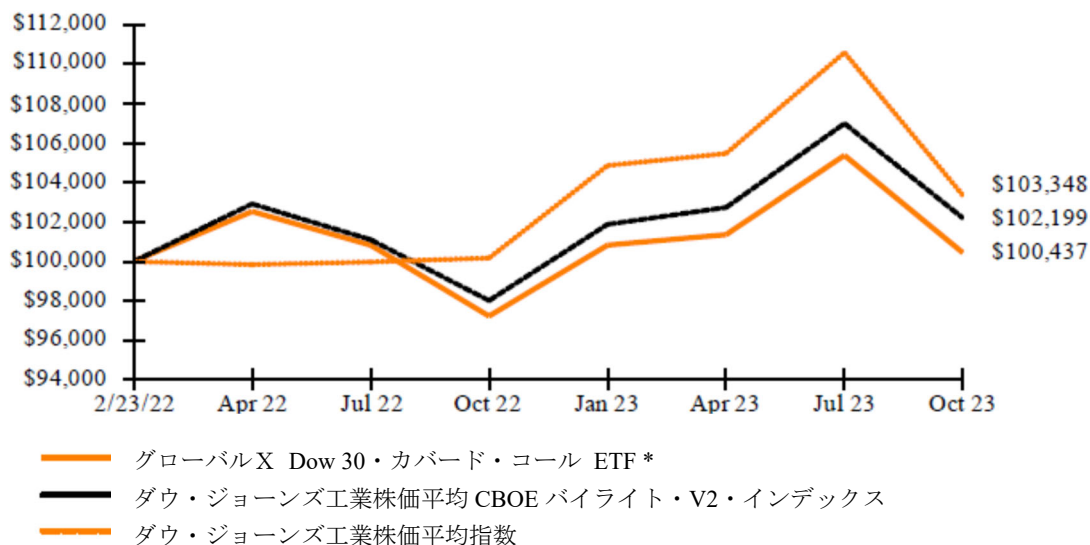
2023年10月31日に終了した12か月間（以下「報告期間」という。）において、対象インデックスが4.27%上昇した一方で、本ファンドは3.30%上昇した。本ファンドの純資産額は2022年10月31日時点で、一口当たり21.89ドルであり、2023年10月31日時点において同20.89ドルで報告期間を終了した。

報告期間中、最もリターンが高かったものは、Microsoft Corp および Intel Corp であり、それぞれ47.06%と32.70%のリターンであった。最もパフォーマンスが低調だったものは、Walgreens Boots Alliance Inc および 3M Co であり、それぞれ-38.80%と-23.63%のリターンであった。

報告期間中、本ファンドは、米国経済に関する肯定的なデータを受けて、プラスのリターンを記録した。好調な企業収益、インフレ率の低下、および高い消費者信頼感が本ファンドの保有銘柄にプラスの影響を及ぼした。参照インデックスのボラティリティがほとんど抑制されていたにもかかわらず、本ファンドは報告期間を通じて、参照インデックスのパフォーマンスをわずかに上回ることができた。このパフォーマンスは、本ファンドのカバード・コール・ライティング戦略により受領したプレミアムによるものであった。報告期間中の本ファンドのセクター別の平均エクスポージャーは、金融が20.33%、ヘルスケアが19.96%、情報技術が16.81%と最も高かった。

	2023年10月期平均年間トータル・リターン			
	1年		運用開始からの年平均*	
	純資産額	時価	純資産額	時価
グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF	3.30%	4.53%	0.26%	1.12%
ダウ・ジョーンズ工業株価平均CBOEバイライト・V2・インデックス	4.27%	4.27%	1.30%	1.30%
ダウ・ジョーンズ工業株価平均指数	3.17%	3.17%	1.97%	1.97%

投資額 10,000 ドルの成長推移（純資産ベース）



*本ファンドは、2022年2月23日に運用を開始した。

ダウ・ジョーンズ工業株価平均、ダウ・ジョーンズまたは単にダウは、米国株式市場に上場している優良企業 30 銘柄からなる株式市場指数である。ダウ・ジョーンズ工業株価平均は、最も古く、かつ、最も一般に参照されている株式指数の一つである。

本書で引用する実績データは、過去の実績であり、本ファンドに対する投資のリターンおよび価額は変動し、売却時には、その価値が当初の費用を下回ることがある。過去の実績は、将来のパフォーマンスを一切保証しておらず、本ファンドの将来の結果を表しているものとみなされるべきではない。本ファンドのパフォーマンスは、すべての配当およびキャピタル・ゲインの再投資を前提としている。インデックスのリターンは、配当の再投資を前提としているが、本ファンドとは異なり、手数料および費用を考慮していない。かかる手数料および費用をインデックスのリターンに含めた場合、パフォーマンスは低下する。インデックスそのものには直接投資できないことに留意されたい。上記期間におけるパフォーマンス数値は、契約上の報酬免除および／または費用の償還を反映している場合がある。報酬の免除および／または費用の償還（該当する場合）がなかった場合には、リターンはさらに低くなることとなる。

本ファンドが規定の目的を達成する保証はない。

本ファンドの保有銘柄および配分は、変更される場合があり、個別の銘柄の購入を推奨するものとはみなされない。

上記のグラフおよび表は、本ファンドの分配、または本ファンドのシェアの償還もしくは売却に関してシェア保有者が支払う税金の控除前のものである。

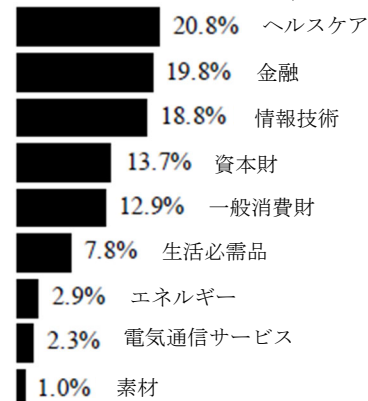
上記の比較対象インデックスの定義を参照。

投資一覧

グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF (DJIA)

2023年10月31日

セクター比重割合 (未監査) †



† セクター比重割合は、投資の市場価格総額に基づいている。投資総額は、該当する場合には、オプション、先物取引、先渡契約、およびスワップ契約などのデリバティブを除く。

銘柄	株式数	価額
普通株式^(A) - 101.4%		
米国 - 101.4%		
電気通信サービス - 2.4%		
Verizon Communications	15,967	560,921
Walt Disney [†]	15,967	1,302,747
電気通信サービス合計		1,863,668
一般消費財 - 13.1%		
Home Depot	15,967	4,545,645
McDonald's	15,967	4,186,068
NIKE, Cl B	15,967	1,640,929
一般消費財合計		10,372,642
生活必需品 - 7.9%		
Coca-Cola	15,967	901,976
Procter & Gamble	15,967	2,395,529
Walgreens Boots Alliance	15,967	336,584
Walmart	15,967	2,609,168
生活必需品合計		6,243,257
エネルギー - 2.9%		
Chevron	15,967	2,326,871
金融 - 20.0%		
American Express	15,967	2,331,661
Goldman Sachs Group	15,967	4,847,741
JPMorgan Chase	15,967	2,220,371
Travelers	15,967	2,673,514
Visa, Cl A	15,967	3,753,842
金融合計		15,827,129
ヘルスケア - 21.1%		
Amgen	15,967	4,082,762
Johnson & Johnson	15,967	2,368,545
Merck	15,967	1,639,811
UnitedHealth Group	15,967	8,551,286
ヘルスケア合計		16,642,404
資本財 - 13.9%		
3M	15,967	1,452,199
Boeing [†]	15,967	2,982,955
Caterpillar	15,967	3,609,340
Honeywell International	15,967	2,926,112
資本財合計		10,970,606

財務諸表に対する注記は、財務諸表の不可欠な一部である。

銘柄	株式数	価額
情報技術 – 19.1%		
Apple	15,967	2,726,685
Cisco Systems	15,967	832,360
Intel	15,967	582,795
International Business Machines	15,967	2,309,467
Microsoft	15,967	5,398,602
Salesforce*	15,967	3,206,653
情報技術合計		15,056,562
素材 – 1.0%		
Dow	15,967	771,845
米国合計		80,074,984
普通株式総額		
(取得費: \$78,716,691)		80,074,984
投資総額 – 101.4%		
(取得費: \$78,716,691)		80,074,984
売建オプション – (1.5)%		
(受領されたプレミアム: \$(1,082,757))		(1,217,055)

割合は純資産 78,947,151 ドルに基づく。

2023年10月31日現在、本ファンドが保有する上場オプション取引の一覧は以下のとおりである。

概要	取引数	想定元本	権利行使価格	満期日	価額
売建オプション – (1.5)%					
コールオプション					
Dow Jones Industrial Average	(2,422)	\$ (80,054,366)	\$335	2023年11月17日	\$ (1,217,055)

* 非収益性証券

(A) 証券の全部または一部は、オプション取引の担保として分離されている。担保として差し入れられているかかる証券の公正価値は、2023年10月31日現在、80,074,984 ドルである。

以下は、価額で計上される本ファンドの証券およびその他の金融商品の評価に際し、2023年10月31日現在に用いられたインプットのレベルの概要である。

証券投資	レベル1	レベル2	レベル3	合計
普通株式	\$ 80,074,984	\$ —	\$ —	\$ 80,074,984
証券投資総額	\$ 80,074,984	\$ —	\$ —	\$ 80,074,984
その他の金融商品	レベル1	レベル2	レベル3	合計
売建オプション	\$ (1,217,055)	\$ —	\$ —	\$ (1,217,055)
その他の金融商品総額	\$ (1,217,055)	\$ —	\$ —	\$ (1,217,055)

「—」と記載されている場合、その額が0ドルまたは四捨五入して0ドルであることを表している。

財務諸表に対する注記は、財務諸表の不可欠な一部である。

貸借対照表

2023年10月31日

	グローバルX Dow 30・ カバード・コール ETF
資 産	
投資（取得費）	\$78,716,691
投資（評価額）	\$80,074,984
現金	75,274
未収配当金、未収利息および未収証券貸付収入	56,003
還付請求額の受取勘定	—
売却されたキャピタル・シェアの受取勘定	—
売却された投資有価証券の受取勘定	—
資産合計	80,206,261
負 債	
投資アドバイザーに対する支払勘定	40,962
売建オプション（評価額） ⁽¹⁾	1,217,055
購入された投資有価証券の支払勘定	—
未払保管報酬	217
ブローカーに対する負債	876
負債合計	1,259,110
純 資 産	\$78,947,151
純 資 産	
払込資本	\$79,241,435
分配可能収益（累積損失）合計	(294,284)
純 資 産	\$78,947,151
発行済受益権シェア（授權数の制限なし—無額面）	3,780,000
シェア1口当たり純資産価額、売出価格および償還価格	\$20.89

⁽¹⁾ 売建オプションについて受領されたプレミアムは1,082,757ドルであった。

財務諸表に対する注記は、財務諸表の不可欠な一部である。

損益計算書

2023年10月31日終了の計算期間

	グローバルX Dow 30・ カバード・コール ETF
投資利益	
受取配当金	\$1,533,170
受取利息	4
外国源泉徴収税の控除額	—
投資利益合計	1,533,174
費用	
監督および管理報酬 ⁽¹⁾	426,787
保管報酬 ⁽²⁾	717
費用合計	427,504
監督および管理報酬放棄額	—
正味費用	427,504
正味投資利益	1,105,670
正味実現利益（損失）の内訳	
投資 ⁽³⁾	904,467
買建オプション	—
売建オプション	(1,826,622)
外国通貨取引	—
正味実現利益（損失）	(922,155)
未実現増価（減価）の正味変動額の内訳	
投資	(555,992)
買建オプション	—
売建オプション	2,152,614
外国通貨換算	—
未実現増価の正味変動額	1,596,622
実現および未実現の正味利益	674,467
運用による純資産の正味増加	\$1,780,137

(1) 監督および管理報酬は、アドバイザーにより提供される投資顧問業務に対して本ファンドが支払う報酬を含む。（財務諸表に対する注記の注記3を参照のこと。）

(2) 財務諸表に対する注記の注記2を参照のこと。

(3) 現物償還から生じた実現利益（損失）を含む。（財務諸表に対する注記の注記4を参照のこと。）

財務諸表に対する注記は、財務諸表の不可欠な一部である。

純資産変動計算書

	グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF	
	2023年10月31日終了 計算期間	2022年10月31日終了 計算期間 ⁽¹⁾
運用		
正味投資利益	\$1,105,670	\$238,679
正味実現利益（損失）	(922,155)	(596,124)
未実現増価（減価）の正味変動額	1,596,622	(372,627)
運用による純資産の正味増加（減少）	1,780,137	(730,072)
分配	(609,561)	(734,788)
資本の払戻し	(4,969,158)	(1,115,840)
キャピタル・シェア取引		
発行済	40,828,893	55,565,290
償還済	(11,067,750)	—
キャピタル・シェア取引による純資産の増加	29,761,143	55,565,290
純資産の増加合計	25,962,561	52,984,590
純資産		
期首	52,984,590	—
期末	\$78,947,151	\$52,984,590
シェア取引		
発行済	1,870,000	2,420,000
償還済	(510,000)	—
シェア取引による発行済シェアの正味増加	1,360,000	2,420,000

⁽¹⁾ 本ファンドは、2022年2月23日に運用を開始した。

財務ハイライト

記載期間を通じた発行済シェア1口についての要約データ

グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF	2023年	2022年 ⁽¹⁾
期首純資産額 (\$)	21.89	24.13
正味投資利益 (\$)*	0.34	0.22
投資に関する実現および未実現の正味利益 (損失) (\$)	0.38	(0.86)
運用による合計 (\$)	0.72	(0.64)
正味投資利益による分配 (\$)	(0.18)	(0.64)
キャピタル・ゲインによる分配 (\$)	—	—
資本の払戻し (\$)	(1.54)	(0.96)
分配による合計 (\$)	(1.72)	(1.60)
期末純資産額 (\$)	20.89	21.89
トータル・リターン (%)**	3.30	(2.77)
期末純資産 (単位: 1,000 ドル)	78,947	52,985
平均純資産に対する費用の比率 (%)	0.60	0.61† ⁽²⁾
平均純資産に対する正味投資利益の比率 (%)	1.55	1.42†
ポートフォリオ・ターンオーバー比率 (%) ††	6.67	8.82

* シェア1口当たりのデータは、平均シェア方式を用いて計算されている。

** トータル・リターンは当該期間のものであり、年換算されていない。記載のリターンは、本ファンドの分配または本ファンドの償還につきシェア保有者が支払う税金控除を反映していない。

† 年換算されている。

†† ポートフォリオ・ターンオーバー比率は当該期間のものであり、1年に満たない期間については、年換算されていない。現物譲渡は含まれていない。

⁽¹⁾ 本ファンドは、2022年2月23日に運用を開始した。

⁽²⁾ 報告期間後に本ファンドのカストディアンから請求され、カストディアンから本ファンドに払い戻された手数料を含む。これらの手数料を除いた場合、平均純資産に対する比率は0.60%となる。

「—」と記載されている金額は、0ドルであるか、0ドルに四捨五入されている。

財務諸表に対する注記は、財務諸表の不可欠な一部である。

財務諸表に対する注記

1. 設立

グローバルXファンズ（以下「本トラスト」という。）は、2008年3月6日にデラウェア州の制定法上の信託として設立された。本トラストは、1940年投資会社法（その後の改正を含み、以下「1940年法」という。）に基づき、オープンエンド型の運用投資会社として登録されている。2023年10月31日現在、本トラストは113のポートフォリオを保有し、その内108のポートフォリオが運用されている。本書に含まれる財務書類および関連する注記は、グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF（以下「本ファンド」という。）に関するものである。

本ファンドは、1940年法上の非分散型ファンドとしての分類を選択していない。

2. 重要な会計方針

以下は、本ファンドが従う重要な会計方針の概要である。

見積りの利用

本ファンドは、米国の財務会計基準審議会がトピック 946 において発行した会計報告指針を採用する投資法人である。米国で一般に認められた会計原則（以下「米国 GAAP」という。）に従って財務諸表を作成するには、経営陣は、財務諸表の日付現在の資産および負債の計上額ならびに偶発資産・負債の開示内容や、報告期間中の業務による純資産の増加および減少の計上額に影響を与える一定の見積りおよび仮定を行う必要がある。実際の結果はこうした見積りと大きく相違することがある。

資本の払戻しの見積り

本ファンドが投資先のマスター・リミテッド・パートナーシップ（以下「MLP」という。）および不動産投資信託（以下「REIT」という。）への投資から受け取る分配金は、原則として利益および資本の払戻しからなる。本ファンドは、投資収益および資本の払戻しを、該当する分配金を受領した時点における見積りに基づいて計上する。その見積りは、MLP、REIT および業界のその他情報源から入手可能な過去の情報に基づくものである。見積りは、MLP および REIT の税務申告期間の終了後に MLP および REIT から受領する情報に基づいて事後的に更新される場合がある。

MLP

本トラストの一部のファンドは、MLPに投資を行うことができる。MLPは、鉱物および天然資源の輸送、保管および処理を行う上場パートナーシップである。これら特定の活動にその業務を限定することにより、その持分またはユニットは、法人レベルでの課税を免れつつも、まさに会社の株式と同様に、公開の証券市場での取引が可能になる。MLPとして認められ、かつ会社のような課税を受けないために、パートナーシップは、その収入の90%以上が1986年内国歳入法（その改正を含め、以下「歳入法」という。）第7704条(d)に定められた適格な源泉から受領したものであることが必要となる。ここでいう適格な源泉には、鉱物または天然資源の輸送、保管および処理等の天然資源をその基礎とする活動が含まれる。MLPには一般的に、ジェネラルパートナーとリミテッドパートナーの2つのクラスの所有者がある。MLPのジェネラルパートナーは通常、大規模なエネルギー企業、投資ファンド、MLPの直接の経営者、またはそれらが所有する法人により所有されている。ジェネラルパートナーは、非公開または公開の会社等の主体として組成されることがある。

ジェネラルパートナーは通常、MLPの持分の2%以下に加え、多くの場合、普通ユニットおよび劣後ユニットの所有によってMLPの運営および経営を支配する。

リミテッドパートナーは通常、普通ユニットの所有により、パートナーシップのそれ以外の部分を所有し、パートナーシップの運営および経営について果たす役割は限定的である。MLPは通常、普通ユニットおよびジェネラルパートナー持分に四半期毎の規定最少額までの四半期分配金（以下「四半期最低分配金」または「MQD」という。）を受領する第一の優先権があるように設計される。普通持分およびジェネラルパートナー持分については、MQDが支払われていない場合に分配に遅滞金が生じる。普通持分およびジェネラルパートナー持分についての支払後、劣後ユニットはMQDを上限とする分配金を受領する。但し、劣後ユニットについては遅滞金が発生しない。分配可能な現金のうちMQDを超える部分については、普通ユニットおよび劣後ユニットの両方に支払われ、原則として普通ユニットおよび劣後ユニットの両方に按分で分配される。ジェネラルパートナーはさらに、ジェネラルパートナーの事業運営により普通ユニット1口当たりに支払われる分配金が規定の目標値を超えた場合、インセンティブ分配金を受け取る資格を有する。ジェネラルパートナーがリミテッドパートナーへの分配金を増額させるにしたがって、ジェネラルパートナーへの分配金の割合は漸増する。

有価証券の評価

相場が随時利用可能な証券取引所もしくは市場に上場している、または株式店頭市場機械

化システムに登録されている有価証券（NASDAQ 株式市場（以下「NASDAQ」という。）で取引されている有価証券を除く。）は、店頭取引の有価証券を含め、主要な証券取引所または取引が行われている（国内外の）取引所での最終の（または、有価証券の主たる取引が通常その時刻に開始する場合、東部標準時午後 4 時頃に）成立した取引価格で、あるいはそのような成立した取引価格の報告がない場合、公正価格の近似値として、売呼値と買呼値との仲値（当該取引所に売呼値および買呼値の両方は存在しない場合、買呼値が使用される場合がある。）で評価される。

NASDAQ で取引される証券については、NASDAQ の公式の終値が使用される。外国有価証券の価格は現地通貨で報告された上、報告日における為替レートを使用して米ドルに換算される。本トラストが評価に用いる為替レートは、ニューヨークまたはロンドンでの日々の終値とする。

取引所で取引されるオプションは、その日の市場終了時の売りおよび買いの相場価格の平均値で評価される。売り価格および買い価格のいずれかが入手できない場合、直近の終値が使用される。

その市場価格が「随時入手可能」ではない有価証券は、本ファンドの投資顧問であるグローバル・X・マネジメント・カンパニー・エルエルシー（以下「アドバイザー」という。）が定め、本トラストの受託者会（以下「受託者会」という。）が承認した公正価値の決定手順（以下「公正価値決定手順」という。）に従って評価される。1940 年法の規則 2a-5 に従い、受託者会は、アドバイザーを、容易に入手できる市場相場がない証券およびその他の商品の公正価値を決定する「指定評価者」として指定している。公正価値決定手順は、アドバイザーの公正価値決定委員会（以下「委員会」という。）により実行される。公正価値決定手順を用いた有価証券価値の決定が必要となる一般的な理由としては、当該有価証券の取引が停止もしくは中断された場合、当該有価証券が主たる取引所において上場廃止となった場合、当該有価証券の主たる市場が通常であれば開いているはずの時間に一時的に開いていない場合、当該有価証券の取引が長期間行われていない場合、当該有価証券の主たる価格情報源が価格を提示できない、もしくはしない場合、または、当該有価証券の取引が現地政府が課す制限を受けている場合等が挙げられる。さらに、米国外で取引される本ファンドの有価証券の価値に重大な影響を与えるおそれがある事象（以下「重要事象」という。）が当該有価証券の最後の取引終了時点から本ファンドがその純資産額（以下「NAV」という。）を算出するまでの間に発生した場合、本ファンドは、その公正価値を決定することができる。重要事象は、単独の発行体に関するものである場合もあれば、市場セクター全体に関するものである場合もある。重要事象となりうる事象には、政府による措置、自然災害、武力紛争、テロ行為および市場における大きな変動が含まれる。アドバイザーがある有価証券または有価証券のグループに関して、当該有価証券

の主たる取引が行われる取引所または市場の終了後、本ファンドがその純資産額を算出する時点までに発生した重要事象を認識した場合、アドバイザーは、委員会の招集を要請することができる。委員会は、公正価値決定手順に従って有価証券の価値が決定される際には、自ら合理的に入手可能なあらゆる関連情報を考慮した上でその価値を決定する。

債券は、利用可能な場合、独立した外部の価格決定事業者が提供する評価に基づき価格が決定される。かかる評価には原則として、当該有価証券が活発に取引されている場合、その報告された最新の売却価格が反映される。外部の価格決定事業者はまた、実際の市場取引、ブローカーが提供する評価、当該有価証券の市場価値を決定するために設計されたその他の方法を用いる手法を利用して評価された買呼値で債券の価値を決定する場合がある。満期までの残存期間が 60 日未満の債券は、市場価値に近似するそれぞれの償却原価で評価されることがある。本ファンドが保有する有価証券の大部分について、その価格は広く認められている外部価格決定業者により日々提供される。本ファンドは、ある有価証券の価格が独立した外部の価格決定事業者から取得できない場合、1 社以上の外部ブローカーから買呼値の取得を試みる。

本ファンドは、公正価値の測定に関する権威ある指針および米国 GAAP に基づく開示に従い、公正価値の測定に用いられる評価手法へのインプットの順序に基づきその投資資産の公正価値を開示する。公正価値の測定の目的は、市場参加者同士の間での秩序だった取引において資産を売却して受領し、または債務を譲渡して支払われる測定日時点における価格（出口価格）を決定することである。したがって、公正価値のヒエラルキーでは同一の資産または債務についての活発な市場における相場価格（未調整）の優先順位が最も高く（レベル 1）、観測不能のインプットの優先順位が最も低い（レベル 3）。三層からなるインプットのヒエラルキーは、以下の 3 つのレベルにまとめられる。

レベル 1 — 同一の非制限資産または債務の、測定日時点で本ファンドがアクセス可能な活発な市場における未調整の相場価格

レベル 2 — その他の重要な観測可能なインプット（活発でない市場における相場価格、類似の投資対象の相場価格および本ファンドが測定日またはそれに近い期間でトランシェを NAV で全額償還可能な投資対象ならびに償却コストで評価される短期投資の公正価値等）

レベル 3 — 重要な観測不能なインプット（本ファンドの投資対象の公正価値決定における前提事項および本ファンドが測定日またはそれに近い期間ではトランシェを NAV で全額償還ができない投資対象の公正価値等）

投資は、公正価値の決定において、検討される最も低いレベルのインプットに分類される。その公正価値の測定において複数のインプットを考慮するレベル 3 に分類される投資は、公正価値測定全体の一部にレベル 1 またはレベル 2 のインプットを含むことがある。投資の分類の詳細については、投資一覧を参照のこと。

レベル 3 資産の公正価値の判断に使用される観察不能な各インプットは、評価に共通する影響を与えることもあれば、相異なる影響を与えることもある。これらのインプット単独での大幅な増減および各インプットの相互関係は、公正価値の測定に非常に大きな上下幅をもたらすことがある。

ブローカーとの間の授受

ブローカーとの間の授受には、2023 年 10 月 31 日時点の本ファンドの清算ブローカーまたは取引相手方との間で行われた現金および担保の差額のやり取りが含まれる。本ファンドは、取引の相手方である各ブローカーまたは取引相手方の信用状況を継続的に監視する。ブローカーまたは取引相手方がその義務を履行できない場合、本ファンドは、カウンターパーティに関する信用リスクに晒されることになる。

レポ取引

BNP パリバによるレポ取引の担保として提供されている有価証券は、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン（以下「BBH」という。）またはバンク・オブ・ニューヨーク・メロン（以下「BNY メロン」という。）のいずれか該当する方が、本ファンドのカストディアン（以下「本カストディアン」という。）として保有しており、帳簿システム上本ファンドのために本カストディアンにより保有されているものとされている。本ファンドは、日毎に担保の充分性を監視し、担保提供されている有価証券の市場価値がレポ取引の発生済利息を含む帳簿価値を下回る場合には相手方に追加の担保の提供を求めることができる。

アドバイザーが信用性があると判断する銀行等の金融機関とのみレポ取引を行うというのが、本ファンドの方針である。本ファンドは、レポ取引の相手方が債務不履行に陥り担保として受け取った原証券を処分する自らの権利を行使できない場合の損失リスクを負う。本ファンドは、財務書類において貸借対照表上、証券貸付担保（レポ取引に含まれる。評価額または制限付預金）を資産として計上し、証券貸付担保の返済義務を負債として計上している。

本ファンドは、本ファンドがデフォルト事由（例えば、破産または支払不能）等一定の状況下においてそれに基づく未払金および／または未収金を相手方との間で保有し、および

／または差入れている担保をもって一括清算して本ファンドに対するまたは本ファンドからの一つの債権の支払いとすることを可能とするマスターレポ取引（以下「MRA」という。）に基づいて、各レポ取引を行う。

連邦所得税

本ファンドは、歳入法の M 節の規定を遵守することにより連邦所得税法上の規制投資会社として認められ、またはその資格を保持し続けることを意図している。そのため、以下に記載されている場合を除き、財務書類において連邦所得税の引当は行われていない。

本ファンドは、本ファンドの税務申告書作成の際に採用し、または採用すると見込まれる税務上のポジションを評価し、そのポジションの制度上の利点に基づく課税当局による調査においてそれぞれの税務上のポジションが「高い可能性」で（具体的には半分以上の確率で）維持できるか否かを判断する。上記の高い可能性の基準を満たすとはみなされない税務上のポジションは、当該年度において税務上の便益または費用として計上される。本ファンドは今期中税務上のポジションを計上しなかった。但し、税務上のポジションに関する経営陣の結論は、課税当局による調査（具体的には、（該当する場合）過去 3 年の課税年度終了時）ならびに税法および税規制ならびにその解釈の随時の分析および改正・変更を含み、かつこれに限定されない要因に基づいて後日の検証および調整を受ける場合がある。

外国において未了となっている税務申告が本ファンドにある場合、調査の対象となる課税年度は、本ファンドの開始まで遡る場合がある。

2023 年 10 月 31 日現在および同日に終了した報告期間中、本ファンドに未認識の税制優遇措置に係る債務は存在していなかった。本ファンドは、未認識の税制優遇措置に関して利得および加算税がある場合、損益計算書上それを所得税費用として計上する。当該報告期間中、本ファンドにおいて利得または加算税は発生しなかった。

証券取引および投資収益

証券取引は、財務報告書において取引日付で記載されている。投資有価証券売却の実現損益を決定するための費用は、個別の認識に基づいている。配当収益は、配当落ち期日付で計上されている。利息収益は、決済日からの発生ベースで認識されている。プレミアムの償却およびディスカウントの増額は受取利息に含まれている。

外貨取引および換算

本ファンドの帳簿記録は、米ドル建てで管理される。外国通貨建ての投資証券およびその他の資産・負債は、評価日現在で米ドルに換算されている。投資証券の売買、収入および経費は、当該取引日現在の実勢為替レートで米ドルに換算されている。本ファンドは、証券の市場価格の値動きに起因する変動のうち、為替レートの変化による実現・未実現の損益部分を分離しない。かかる損益は、損益計算書の正味実現・未実現損益に含まれている。外国為替取引および換算の正味実現・未実現損益は、外国通貨のスポット取引、外貨の処分、証券取引の取引日と決済日との間に実現した為替差益・差損ならびに投資収益の金額および外国の源泉徴収税の本ファンドの帳簿に記録される金額と実際に受領したまたは支払われた米ドル相当額との差額による外国為替損益の純額を表す。

シェア保有者に対する配当および分配金

本ファンドは、按分で投資収益を分配する。正味投資収益および正味実現キャピタル・ゲインは、年に一度以上分配される。すべての分配は、配当落ち期日付で記録される。

REIT への投資

本ファンドに関して、配当収益は、公表された REIT の分類の変更を利用して、実際の金額が利用可能ではない際の経営陣による見積りを含め、REIT 投資から受領する分配金に含まれる収益に基づき記録される。上記見積りを超えて受領された分配金は、投資費用の減少として、またはキャピタル・ゲインにその分類を変更されて記録されている。収益、資本の払戻しおよびキャピタル・ゲインの実際の金額は、各 REIT の年度終了後に各 REIT のみにより決定され、見積額とは異なる場合がある。

発行単位

本ファンドは、そのシェア（以下「シェア」という。）について、継続的に、純資産額（以下「NAV」という。）で、かつ 10,000 単位のまとまり（以下「発行単位」という。）でのみ、発行および償還を行う。NAV で発行単位を購入する者（以下「指定参加者」という。）は、取引毎に規定の発行取引手数料を支払わなければならない。手数料は、一回払いで、同日中に指定参加者が購入する発行単位の数にかかわらず同額である。

発行単位を保有しており、その NAV での償還を希望する指定参加者は、当該償還日に、同日に償還される発行単位の数にかかわらず、取引毎に規定の償還手数料を本ファンドの本カस्टディアンに支払う。

発行単位が現金で購入または償還される場合、追加の各種手数料が課される場合がある。以下の表では、発行単位の詳細を開示している。

	発行単位の		2023年10月31日	
	シェア	発行手数料	現在の価額	償還手数料
グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF	10,000	\$ 250	\$ 208,900	\$ 250

現金当座借越手数料

BBHがカストディアンを務める本ファンドに特定の日に現金当座借越がある場合、BBHとの契約の条件に基づき、当座借越手数料がBBHの基本レートに2.00%を加えた料率で請求される。BNYメロンがカストディアンを務める本ファンドに現金当座借越がある場合、BNYメロンとの契約条件により、BNYメロンが機関投資家のカストディアン顧客に対して当該通貨で請求する利率で利息が請求される。現金当座借越手数料は、損益計算書のカストディアン報酬に含まれている。

オプション／スワップションの売買

本トラストの一部のファンドは、自らの投資方針に合致する限り、オプションの売買を行うことができる。

本ファンドがオプションを購入する際に支払うプレミアムは、本ファンドの資産として計上されている。本ファンドがオプションを売却する際に、本ファンドが受け取るプレミアムの純額（プレミアムから委託手数料を差し引いた額）に相当する額は、繰延クレジットとして本ファンドの貸借対照表の負債の部に含まれている。上記の資産または繰延クレジットの額は、売買されたオプションの現在の価値を反映するために後日時価評価される。取引されたオプションの現在価値は、最後の売却価格または、売却が生じていない場合、最新の買呼値である。本ファンドが購入したオプションが行使されないまま失効した場合、本ファンドは、支払ったプレミアムに等しい額を実現損失として確定する。本ファンドが購入したオプションについて売却取引の決済を行う場合、本ファンドは、決済取引において自ら受け取るプレミアムが当該オプションの購入のために支払ったプレミアムを上回る場合に実現利益を確定し、下回る場合には実現損失を確定する。本ファンドが売却したオプションが規定の満期日に失効する場合、または本ファンドが購入取引の決済を行う場合、本ファンドは、実現利益（または、購入取引の決済にかかる費用がオプションの売却時に受け取るプレミアムの純額を上回る場合には実現損失）を確定し、当該オプシ

ンに関する繰延クレジットは消去される。本ファンドが売却したオプションが行使される場合、売却収益は、当初受領していたプレミアムの純額分増加し、本ファンドは実現利益または実現損失を確定する。

保有している有価証券の市場価値の変動と売買される有価証券に関するオプション価格との間の不完全な相関およびオプションに関する流動性のある流通市場の欠如により、リスクが生じる場合がある。購入したオプションによる損失への最大エクスポージャーは、当該オプションについて最初に支払われたプレミアムに限定される。アンカバード・コール・オプションの売却により、本ファンドは、無制限の損失リスクを負うことになる。カバード・コール・オプションの売却は、有価証券の権利行使価格以上の値上がり益を制限する。プット・オプションの売却は、当該有価証券の価値が権利行使価格を下回る場合、本ファンドを損失リスクにさらすことになる。

本ファンドは、その参照インデックスに対応するカバード・コール・オプションおよび／またはプット・オプションを売却することができる。カバード・コール・オプションの売却により、本ファンドは、プレミアムと引き換えに、原投資証券の市場価格が上昇した場合、行使価格を上回る資本増価の機会を先取りする。これとは反対に、プット・オプションの売却により、本ファンドは、プレミアムと引き換えに、原投資証券の価格が下落した場合でも固定された行使価格で証券を購入しなければならないリスクを引き受け、本ファンドは、原投資証券のダウンサイドリスクにさらされる。

売建オプションが失効もしくは終了し、または売却されると、本ファンドは、利益または損失を計上する。オプション取引の正味損益は、損益計算書に反映され、未実現の正味利益（損失）は、損益計算書中、オプション取引の未実現増価（減価）の純増減の一部に含まれている。

3. 関連当事者間取引およびサービス事業者取引

アドバイザーは、2018年7月2日付で、ミレーアセット・グローバル・インベストメンツ・カンパニー・リミテッド（以下「ミレー」という。）の間接的な完全子会社になる取引を完了した。アドバイザーは、これにより、ミレーの最終的な支配を受けている。

アドバイザーは、本ファンドの投資顧問および事務代行会社を務める。アドバイザーは、委員会の監督の下、本ファンドの投資活動の管理ならびに本ファンドの事業およびその他管理業務を担当しており、一定の販売サービス（別途の販売契約に基づき提供される。）、シェア保有者および分配に関する一定のサービス（別途の規則 12b-1 プランおよび関連契約に基づき提供される。）および投資顧問業務（別途の投資顧問契約に基づき提

供される。)を含め、原則として「すべて込み」の手数料体系の下、あらゆる監督、事務および本ファンドの業務に合理的に必要なその他のサービスを提供し、または提供させる。

本ファンドは、アドバイザーによる本ファンドへのサービスにつき、監督・事務管理契約（以下「監督・事務管理契約」という。）に基づいて、下記の年間料率（本ファンドの日々の純資産に対する割合で表示されている。）でアドバイザーに対し月額手数料（以下「監督・事務管理手数料」という。）を支払う。本ファンドはさらに、直接または間接に、税金、仲介手数料、委託手数料、一定のカストディアン報酬、取得ファンドの手数料ならびにその他取引費用、利息費用および特別経費（訴訟・補償費用等）等の監督・事務管理契約に含まれないその他の経費を負担する。かかる経費には増減があり、本ファンドの総経費率に影響を与えることがある。

以下の表では、監督・事務管理契約に基づき支払われる監督・事務管理手数料を開示している。

監督・事務管理手数料

グローバル X Dow 30・カバード・コール ETF

0.60%

SEI インベストメンツ・グローバル・ファンズ・サービスズ（以下「SEIGFS」という。）は、本ファンドの復事務代行会社を務める。SEIGFSは、復事務代行会社として、必要な管理サービス全般（事務所スペース、設備および人員、事務およびバックオフィスサービス全般、記帳代行、内部会計および事務局サービス、NAVの計算ならびに報告書、登録書、議決権行使勧誘書類およびその他連邦および州の証券法に基づき本ファンドによる届出または交付が必要な書類の作成および提出の支援を含み、かつこれに限定されない。）のすべてを本ファンドに提供する。SEIGFSは、上記サービスの対価として、日毎に発生し、アドバイザーから月毎に支払われる、一定の現金払費用、取引手数料および資産に基づく手数料を受領する。

SEI インベストメンツ・ディストリビューション・カンパニー（以下「SIDCO」という。）は、本ファンドの引受業者および販売委託契約（以下「販売委託契約」という。）に基づく発行単位の販売業者を務める。SIDCOは、本ファンドのシェアについて特定の数量を販売する義務を負わない。

SIDCOは、シェアの販売に関して以下の費用および経費を負担する。(i) 発行単位の発行記録の作成および維持にかかる費用、(ii) 登録ブローカー/ディーラーに求められる記録

の維持に係る費用の一切、(iii) 連邦法または州法に基づくディーラーまたはブローカーとしての登録または認可を維持するための経費、(iv) 届出費用、および(v) 販売委託契約において企図される販売サービスに関連して発生するその他一切の経費。SIDCO は、販売委託契約に基づく販売サービスについて本ファンドからの報酬を受領せず、それに代えて、アドバイザーが SIDCO に対し、一定の経費、現金払費用および取引手数料を支払う。

BNY メロンは、本ファンドに代わって、本トラスのカストディアンおよび名義書換代理人を務める。カストディアンとして、BNY メロンは国内外のサブカストディアンを任命し、本トラストが購入した証券およびその他の商品を外国で保有し、本トラストのために現金および通貨を保有するために随時預託機関を利用することができる。また、BNY メロンは本ファンドのために本トラストの名義書換代理人も務める。本トラストとの名義書換代理人契約に基づき、BNY メロンは、名義書換代理人を務める本ファンドに関して以下のサービスを提供することを本トラストと約束している。(i) 発行単位の購入および償還の実行と促進、(ii) 証券預託機関（以下「DTC」という。）の振替システムを使って、本ファンドに代わって本トラストが宣言したシェアに関する配当金および分配金の支払いを準備し、送信すること、(iii) 名義書換代理人契約に定められた報告、情報および書類を準備し、交付すること、(iv) 名義書換代理人および配当金支払代理人の慣例的なサービスを実行することおよび、(v) 名義書換代理人契約に定められた、または別途合意されたその他のサービスを提供すること。

4. 投資取引

2023年10月31日に終了した年度について、現物取引、長期米国債および短期証券を除く証券投資の売買は以下のとおりであった。

	購入	売却および満期
グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF	\$ 4,777,649	\$ 12,547,319

2023年10月31日に終了した年度について、長期米国債の売買はなかった。

2023年10月31日に終了した年度について、発行および償還に関連する現物取引は以下のとおりであった。

	購入	売却および満期	実現利益（損失）
グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF	\$ 41,655,798	\$ 11,150,093	\$ 1,712,527

5. デリバティブ取引

以下の表では、デリバティブを基礎となるリスク・エクスポージャー別に分類している。

2023年10月31日現在のデリバティブの公正価値は以下のとおりである。

資産デリバティブ			負債デリバティブ		
貸借対照表中の位置		公正価値	貸借対照表の位置		公正価値
ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ商品					
グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF					
エクイティ取引	購入した投資の評価額	\$	-	エクイティ取引	売建オプションの評価額
					\$ 1,217,055
ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ商品の合計					
		\$	-		\$ 1,217,055

2023年10月31日に終了した年度におけるデリバティブの損益計算書への影響。

損益に認識されたデリバティブの実現利益または（損失）額。

	購入オプション	売建オプション
グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF		
エクイティ取引	\$ -	\$ (1,826,622)

損益に認識されたデリバティブの未実現増価または（未実現減価）の推移。

	購入オプション	売建オプション
グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF		
エクイティ取引	\$ -	\$ 2,152,614

以下の表では、2023年10月31日に終了した年度における本ファンドのオプション取引の月毎の平均残高を開示している。

	売り持ち平均	買い持ち平均
グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF	\$ (959,849)	\$ -

6. 税に関する情報

支払われる収入およびキャピタル・ゲインの分配がある場合、その金額および性質は、連邦所得税規制（米国 GAAP とは異なる場合がある。）に従って決定される。それにより、ある報告期間について投資取引に関する正味投資利益（損失）および正味実現利益（損失）が、当該期間中の分配と大きく乖離することがある。これらの帳簿／税の乖離は一時的な場合もあれば恒常的な場合もある。これらの乖離がその性質上恒常的なものである場合、当該乖離が生じた期間の未分配の正味投資利益（損失）、累積正味実現利益（損失）または払込資本のいずれか適切な科目に計上されている。

2023年10月31日および2022年10月31日に終了した各年度または各期間中に宣言された配当および分配についての課税区分は以下のとおりであった。

	長期キャピタル・				
	経常利益	ゲイン	資本の払戻し	合計	
グローバルX Dow 30・カバード・ コール ETF	2023	\$ 609,561	\$ -	\$ 4,969,158	\$ 5,578,719
	2022	734,788	-	1,115,840	1,850,628

2023年10月31日現在、課税基準である累積損失の内訳は以下のとおりであった。

	グローバルX Dow 30・カバード・コール ETF
未分配経常利益	\$ -
資本損失繰越控除	(294,284)
投資および外国通貨に関する未実現増価（減価）	-
その他一時的差異	-
分配可能収益（累積損失）合計	\$ (294,284)

2010年12月22日より後に開始した各課税年度について、1940年法における意味での規制投資会社は、将来の実現キャピタル・ゲインを相殺するために正味資本損失を繰り越すことができ、繰り越された損失は、長期損失または短期損失いずれかの当初の性質を維持する。かかる規定に基づき繰り越された損失は以下のとおりである。

	短期損失	長期損失	合計
グローバルX Dow 30・カ バード・コール ETF	\$ 50,267	\$ 244,017	\$ 294,284

2023年10月31日に終了した年度中、本ファンドは資本損失繰越控除を利用して以下の額のキャピタル・ゲインを相殺した。

	短期損失	長期損失	合計
グローバル X Dow 30・カバー ド・コール ETF	\$ 337,233	\$ 337,233	\$ 674,466

2023年10月31日現在、本ファンドが保有していた投資に係る連邦所得税費用ならびに総未実現増価および総未実現減価は以下のとおりであった。

	連邦税費用	総未実現増価	総未実現減価	正味総未実現 増価（減価）
グローバル X Dow 30・カ バード・コー ル ETF	\$ 78,857,929	\$ 4,089,794	\$ (4,089,794)	\$ -

帳簿と税費用との間の上記差額は、主に受動的外国投資会社の時価評価扱い、ミックス・ストラドル、MLP 調整、ウォッシュセール、過年度損失の繰延および優先債による差異に起因する。

7. リスクの集中

本ファンドは、様々な国の外国の発行者の証券に投資する。これらの投資には、とりわけ、各国における将来の政治経済の展開ならびに政府による監督の強度および証券市場規制に起因する、通常米国での投資には伴わない考慮事項およびリスクが伴うことがある。

新興市場各国の証券市場は、米国の証券市場に比べて流動性が低く、価格変動が激しく、時価総額が小さい。一部の国々では、公に取引される有価証券が少なく、市場が少数の発行体や業界に支配されていることがある。そうした国々の発行体および証券市場については、会計、財務およびその他の報告義務が米国の発行体および証券市場ほど広範かつ頻繁でなく、政府による規制が米国の発行体および証券市場ほど包括的でない。とりわけ、新興市場各国の発行体の財務書類に記載されている資産および利益は、その財務上のポジションや業績の反映の仕方が米国の発行体の財務書類とは異なる場合がある。新興市場各国の発行体に関する公開情報は、米国の発行体についての公開情報に比べて大幅に少ない可能性がある。

本ファンドは、投資対象の国の課税対象となる可能性がある。そうした税は通常、獲得または本国送金した利益または収益のいずれかに基づく。本ファンドが利益および／またはキャピタル・ゲインを得る際に当該税は発生し、本ファンドは、正味投資利益、正味実現利益および正味未実現利益について上記の税を適用する。

本ファンドは、レプリケーション戦略を用いる。レプリケーション戦略とは、対象インデックスと凡そ同一の割合で、対象インデックスの証券への投資を行うインデックス戦略である。代表サンプル戦略とは、全体として、主なリスク要素、パフォーマンス属性およびその他の性質上対象インデックスに類似する投資上の性格を有する証券の代表的サンプルへの投資（ETF を介した間接的投資を含む。）を行うインデックス戦略である。本ファンドは、対象インデックスに倣って株式のポートフォリオを組み立てるのに実務的困難や相当な費用が伴う等、レプリケーション戦略がシェア保有者に悪影響をもたらす可能性がある場合、または、場合によっては、対象インデックスに含まれる有価証券が一時的に非流動的、入手不能になり、もしくはその流動性が低下した場合、または法律により制限される場合（対象インデックスには適用されないものの本ファンドに適用される分散投資要件等）、その対象インデックスに関して代表サンプル戦略を用いることができる。

一部の本ファンドは、商品関連証券に投資する場合があります、これらは特定の商品市場の変動の影響を受けやすい。商品市場にマイナスの変化が生じた場合、これらの証券に大きな影響を与える可能性がある。

一部の本ファンドは、変動金利計算の参照レートまたはベンチマーク・レートとしてロンドン銀行間取引金利（以下「LIBOR」という。）を利用する金融商品に投資している場合があります。LIBOR は、一般的に銀行が無担保で関連通貨を相互に貸し借りできるレートを測定することを意図している。LIBOR を監督する規制当局である英国金融行為規制機構（以下「FCA」という。）は、2022年1月1日をもってLIBOR金利の大半の公表を停止するか、同日以降代表レートでなくなることを発表した。大半のLIBORレートの公表は2021年末に終了し、その他の米ドルLIBORレートは2023年6月以降公表されなくなった。継続中のLIBORからの移行と、本ファンドおよび本ファンドが投資する金融商品に対するその影響に関連する不確実性とリスクは依然として存在する。代替参照金利（以下「ARR」という。）もしくはARRを利用する本ファンドが投資する金融商品の構成または特性が、LIBORと類似している、またはLIBORと同等の価値もしくは経済的同等性を生み出す保証も、これらの金融商品が同様の数量または流動性を有する保証もない。さらに、2021年12月31日以前に発行または締結された一部の「レガシー」米ドルLIBOR商品および米ドルLIBORが最終的に廃止された場合に代替金利が特定され、これらの商品に導入されるプロセスに関する不確実性とリスクが依然として存在する。2022年12月16日、連邦準備制

度理事会は、変動金利法の施行規則を採択した。同規制は、2023年6月30日以降の特定の金融契約において、LIBORに代わる担保付翌日物調達金利（以下「SOFR」という。）に基づくベンチマーク金利を特定することで、LIBORに代わる法定代替メカニズムを提供するものである。これらの規制は、他の制限の中でもとりわけ、米国法に準拠する契約にのみ適用される。本ファンドは、将来公表されなくなる可能性のある他の銀行間取引金利に連動する商品を保有する可能性がある。本ファンドが保有する「レガシー」米ドル LIBOR 商品におけるそのような不確実性やリスクの影響は、本ファンドに損失をもたらす可能性がある。

より完全なリスクの説明については、本ファンドの目論見書および追加情報説明書（以下「SAI」という。）を参照。

8. 投資有価証券の貸付

本ファンドは、その総資産の市場価値の3分の1を上限として投資している有価証券の貸付を行うことができる。BBH および BNY メロンとの証券貸付契約に基づいて行われる有価証券の貸付は当初、国内の有価証券および米国預託証券（以下「ADR」という。）についてはその価値の102%以上、その他外国証券（ADRを除く。）についてはその価値の105%以上に相当する価値の担保によって保証される必要がある。上記の貸付に関連して受領する担保は現金であり、レポ取引、短期投資または米国債券に投資される場合があり、投資一覧および貸借対照表に記載される。証券貸付の担保を返済する義務は、貸借対照表においても債務として記載される。本ファンドは、貸付有価証券の評価日の後、その翌営業日の終了までに、借主から追加の担保を受領し、借主に余剰担保を返却することをその方針としている。したがって、保有担保の価値は、貸付有価証券の価値を一時的に下回ることがある。

証券貸付に関連して受け取った現金担保は、貸付代理人によりレポ取引および短期投資に投資される。本ファンドは現金以外の担保については実質的支配が及ばないため、本ファンドの投資一覧では開示していない。

有価証券貸付取引は有価証券貸付契約に基づき本ファンドにより締結され、債務不履行が発生した場合など一定の状況下で、本ファンドが取引相手に対して支払うべき金額と、その取引相手から受け取るべき金額とを相殺し、本ファンドが授受すべき正味金額での支払いを行い、または受領することが認められている。

2023年10月31日現在の貸付有価証券および関連担保の残高は、投資一覧に記載されている。保有する担保の価値は、貸付契約に基づく必要額を一時的に下回る可能性がある。

9. 株式併合

本ファンドにつき該当しない事項のため省略。

10. 契約上の義務

本ファンドは、その通常業務の過程で様々な補償を定めた契約を締結する。これらの契約に基づく本ファンドのエクスポージャーの上限は未知数である。但し、本ファンドは、これらの契約に基づく事前の利益または損失を負っていない。経営陣は、本ファンドの既存の契約について検討済みであり、損失リスクは低いと見込んでいる。

本トラストの設立書類に基づき、本トラストの受託者および本トラストの役員は、自らの職務遂行に起因して生じる可能性がある責任の一部について補償を受ける。

11. 後発事象

本ファンドは、後発事象に起因する追加的開示および／または調整の必要性に関して経営陣による評価を受けている。

これら財務諸表の作成にあたり、経営陣は財務諸表の発行日までの後発事象に起因する追加開示および／または調整の必要性を評価した。

この評価に基づき、財務書類について新たな調整は必要とされていない。